

会議議事録（要旨）

会議の名称	平成30年度 第1回 鳥取市地域福祉計画・地域福祉活動計画作成委員会
開催日時	平成30年5月29日（火）午後1時30分～3時30分
開催場所	鳥取市役所駅南庁舎 第5会議室
出席者氏名	岸本 一良委員、今井 久仁子委員、竹本 匡吾委員、山根 恒委員 岸田 光世委員、金谷 達美委員、岩城 隆志委員、幸本 一章委員、 岸 清志委員、池成 福巳委員、中村 裕司委員、山根 裕子委員
欠席者氏名	竹森 貞美委員、山本 恵子委員、竹川 俊夫委員、木下 仁人委員、 原田 伸吾委員
事務局	鳥取市役所地域福祉課・鳥取市社会福祉協議会
会議次第	1 開会 2 福祉部長あいさつ 3 委員自己紹介 4 委員長及び副委員長の選任について 5 委員長及び副委員長あいさつ 6 議事 （1）スケジュールについて （2）地域共生社会と地域福祉計画・地域福祉活動計画について （3）資料から見る鳥取市の地域福祉の現状と課題に関する意見交換 について （4）その他 7 閉会
配付資料	資料1 鳥取市地域福祉計画作成委員会設置要綱 資料2 作成委員会のスケジュール 資料3 鳥取市地域福祉計画・地域福祉活動計画の概要 資料4 数字で見る鳥取市の状況 資料5 「鳥取市の地域福祉の推進に関する住民意識調査」の結果概 要 その他 次第、委員名簿、座席表
その他	

議事内容（要旨）	
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・開会、挨拶 ・福祉部長挨拶 ・委員自己紹介、そのほかの出席者紹介 ・会長・副会長選出（会長 岩城委員、副会長 金谷委員） ・会長・副会長挨拶
岩城委員長	・議事（１）スケジュールについて、説明を願いたい。
事務局	・資料２説明
岩城委員長	・質問等あれば伺いたい。
A委員	・グループインタビューとは何か。
事務局	・委員以外からの意見を伺いたいと思います。地域福祉活動を行っている団体に集まってもらい、インタビューを予定しています。時期は6月下旬から7月上旬を予定しています。
岩城委員長	・グループの抽出方法を教えてもらいたい。
事務局	・主に団体・事業者を想定していますが、ほかに個人で福祉活動を行っている人も考えています。
岩城委員長	・委員から事務局へ推薦できるか。
事務局	・委員や委員以外からも幅広く意見を聴く機会を設けられたらと思います。よい人がいれば紹介してもらえると助かります。
岩城委員長	・これまでこういった取組はされてきたか。委員だけでやっている印象があったので、今回は画期的なことを実施する印象だ。
事務局	・市民に向けては、インターネットでのアンケート、市民政策コメントです。ワーキンググループを募集して意見をまとめていただいたこともあります。
岩城委員長	・ほかに意見があれば伺いたい。なければ、続いて議題（２）地域共生社会と地域福祉計画・地域福祉活動計画についての説明をお願いしたい。
事務局	・資料３説明
岩城委員長	・何か質問等あれば伺いたい。なければ、議題（３）資料から見る鳥取市の地域福祉の現状と課題に関する意見交換についての説明をお願いしたい。
事務局	・資料４、資料５説明
岩城委員長	・何か質問や確認等あれば伺いたい。
B委員	・資料５について。いつ頃どのような形でアンケートを取ったのか、実施状況が知りたい。
事務局	・平成２９年１２月に郵送でアンケートを実施しました。２，５００人に配付し、１，２１９人から戻ってきました。有効回収率は４８．８％です。
A委員	・サンプリングはどのようにしたのか。
事務局	・住民基本台帳より、無作為抽出により１８歳以上の市民を対象としました。
K委員	・資料４のＰ３２に「（９）自殺者数の推移」とあるが、「自死」の方がよいのではないか。

議事内容（要旨）	
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・統計書に書いてあるそのままに記しました。今後統一します。
岩城委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ここからは鳥取市の地域福祉の現状と課題について、委員1人ずつ、それぞれの立場から3分程度意見を伺いたい。
A委員	<ul style="list-style-type: none"> ・地区社会福祉協議会は、地域とのつながりを一番感じている。資料4のP17に「地区社会福祉協議会の加入率が緩やかに減少」とあったが、自治会の加入率と連動している気がしている。関係性があるように思う。新興住宅や新しいアパートがどんどん建って、極端に加入率が落ちている所もある。 ・これは反省すべき点だが、地区社会福祉協議会の中身を知らない人が結構いる。PR不足があるように思う。
B委員	<ul style="list-style-type: none"> ・鳥取市内に41地区ある法定単位民生児童委員協議会の中で格差がある。民生委員が1地区に29人いる一方で、7人で支援活動しているという大きな格差がある。 ・民生委員は、どのような人がどのように暮らしているのか地域の隅々まで分かっている。私の担当している町内会の加入率は40%。生活困窮者、子ども支援、一人暮らし、高齢者世帯の家の中で寝たきりになった人の支援活動も行っている。高齢者がいないという地区は、高齢者が1人になると市内に出て行っているためだ。 ・地域共生社会の話があったが、地域ごとで格差が多いものの、最近、民生委員はトップにはなれないが中心となって、地域をどういうふうな形でうまく回転、全員で見守りをしていくかを各団体と話をしながら進めている地区も増えてきた。社会福祉協議会も計画を立て、担当地域を決めて活躍している。子どもたちについても、学校と密に連絡を取りながら、登校拒否児や登校できない子を朝迎えに行くなどの細かい所までしている地区もある。 ・地域の中には高齢者施設に入れられない人もたくさんいる。そういう人との交流を持ちながら、地域全体でどうやって高齢者や子どもたちを見守っていけるかという話を進めていかないといけないと思う。 ・こういう会に出席をして、状況を判断しながら、民生委員でも進めていきたいと思う。
C委員	<ul style="list-style-type: none"> ・資料4のP1の人口を見ると、全体では減少傾向にある中、旧市街地では高層マンションが増え、そちらに人口が移動している。一方、旧町村部は厳しい状況になっている所もある。 ・その中で心配なのは、介護事業所の継続や事業運営だ。介護事業所の職員も高齢化が進んでいる。職員の年齢構成も高い状態になっている。他の町村の例では、看護師の年齢は高め傾向だが、60歳代が半数以上を占めていると、継続性はどうなるのかと思う。 ・鳥取市としての地域福祉計画は、一部、介護保険事業計画とかぶるところもあると思う。鳥取市全体だけでなく、ある程度地域を絞って、その状況も見ながらやってほしいと感じているところだ。

議事内容（要旨）	
D 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・鳥取市内には、11か所子ども食堂があり、これからも増えていく予定だ。開設に向けての準備や話し合いが行われている所もある。最終的には、各中学校区に1つずつできればと考えている。 ・全国的にも子ども食堂が増えているが、始まりは子どもの貧困だ。しかし子どもだけを何とかすればいいわけではなく、背景には親や家庭がある。子どもやその家庭の貧困等、様々な問題を解決できる計画になればいいと思う。 ・鳥取市の子ども食堂は、オープンにして、誰でも利用してくださいとしている。親と一緒に来る子もおり、子どもたちや保護者に話を聞くと深刻な課題が見えてくる。スタッフには元教員や現教員、私のようにカウンセラーの資格を持っている人など、さまざまな資格をもった人や立場の人がおり、互いに支え合っている姿を見ることができる。 ・今、子ども食堂がブームになっているが、ブームで終わらせてはいけないと思う。私たちがやっている子ども食堂は、中央人権福祉センターの支援を受けながらやっている。生活困窮という部分では、このセンターの役割が高いと思うので、計画の中に是非入れてもらいたいと思う。
E 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・住んでいる地区でささえあいネットワークの役員として出席している。大きな鳥取市の計画の中に、小さな地区から声を上げていいものかと考えた。 ・鳥取大学の先生が、市街地の住民の考えについてアンケートを取る際に選んでもらった。民生委員、社会福祉協議会、自治会に入ってもらってメンバーで話し合いを行い、住民のアンケートを平成24年に行った。ここで問題点を見つけ、西人権福祉センターの現所長から、地域に広げていこうということでネットワークの会を同年に立ち上げた。 ・民生委員、社会福祉協議会、自治会、まちづくり協議会に健康づくり推進員協議会を加え、何をしたらよいか話し合いを行い、皆が仲良く幸せに、住み慣れた土地で安心して住めるように支えることから始めようとなった。 ・しかし、話し合ううちに、地域福祉活動をしている団体だけでは話が進まないと分かった。そこで地域に増えてきた介護事業所や鳥取西デイサービスセンター、近くの施設の施設長、認知症地域支援推進員にも加わってもらい、地域の住民を幸せにするためにどうしていくかの話し合いを続けているところだ。 ・今年度の第1回の会が5月11日に行われ、地域の孤立を少なくしていこうとなった。高齢者の孤立をどうしたらよくしていけるかを進めている。小さなことからコツコツと実践しているので、鳥取市の大きな計画にどう加わっていけるのか心配もある。

議事内容（要旨）	
F 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・医療と介護に携わっているが、医療の経験が長い。 ・介護については、4～5年前までは介護職員が辞めても、募集をかければすぐ集まった。しかしここ1～2年は、欠員が出て埋まらない。採用が叶わず、サービスを提供できないことから閉鎖に至る介護事業所も実際にあるようだ。介護保険事業計画も地域福祉計画も、色々なサービスが提供できるという条件で計画を立てると思うが、事業そのものが今後どうか。C委員からも話があったように、職員の高齢化が進むと仕事を続けられない人が出てくる。若い人がなかなか介護事業に参入してくれない。職業選択についても十分考えながら策定していかないといけないと思う。 ・私たちの仕事は医療にしても、介護にしても、医療や介護の保険の範囲内で、より良いサービスを提供するというスタンスで行っている。生活に困窮する人が出て来ると、医療や介護を受けたくても受けられない、外に向かって助けてくれと言えない状況になる。そういった人を早く見つけて、公的、公的でない色々なサービスを受けられるよう、民生委員や社会福祉協議会の活躍が求められる。サービスを受けられない人も一緒に地域で暮らせるよう、行政も含めて、どういう風に計画に盛り込むかも大事だと思う。
G 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・公募委員なので、専門的な知識はないが、自分が住んでいる地区、町内会のスタンスに立って、いくつか話したい。 ・今年の春、配偶者が町内会長を受けたが、まず町内会の範囲が分からなかった。玄関の向きの違いで隣の町内会といったこともある。誰はどこの班かといった、基本的なところが外で働いていたら分からない。 ・住んでいる地区は、昼と夜の人口差が激しい所。年末に我が家の近くにサービス付き高齢者住宅ができた。今後は地域住民と施設、しいては施設に住んでいる方との関係をどうやって築いていくか、互いに良い距離感で付き合いしていくにはどうしたらよいかを町内会で考えているところだ。 ・また今年度の春、地区の食事サービスが中止になった。長い歴史があったが、ボランティアの高齢化など様々な問題があって中止になったことは、地域住民として寂しさを感じている。 ・インターネットで、障害者年金の見直しが行われる、障がいの程度によっては1,000人程度の受給ができなくなるといったニュースを見た。弱者への配慮を含めて、この計画に携わっていかれたらと思う。
H 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・県社会福祉協議会は「我が事・丸ごと」の地域共生社会の実現に向けて動いている。 ・「丸ごと」については、例えば8050問題などは関係機関の連携で、包括的な支援体制はスムーズに形成されていくと思う。本日参加している社会福祉法人にも賛同いただいて、地域における公益的な取組「えんくるり事業」を行っている。総合相談、支援体制を整備して給付をやっていくこともしている。

議事内容（要旨）	
H委員	<ul style="list-style-type: none"> ・一方「我が事」は難しい。住民が地域を共用して生活をする、その地域生活課題を共有して、解決するために共同するのが、地域福祉。「共用」「共有」「共同」、すべて「共」という字が付いているが、生活困窮等で県社会福祉協議会に相談をしている人は、地域との「共」の接点が少ない。 ・「他人事」を「我が事」に変えていくことが必要だ。県社会福祉協議会として座談会等の福祉教育を手がけてきたが、しかし集まってくれるのは、既に福祉が「我が事」になっている人。福祉が「他人事」のような人は集まってくれない。ではどうするのか、が問われていると思う。県社会福祉協議会としては、29年度より災害時における「支え愛マップ」づくりにリニューアルした。災害は誰もが危機感を持って対応していく形になるので、福祉に関心がない人も集まってくれる。「支え愛マップ」のワークショップを通じて、福祉に触れてもらうことを行っている。
I委員	<ul style="list-style-type: none"> ・資料3で地域福祉が定義されているが、地域という生活圏で高齢者や子ども、障がい者に関わりなく、つながり支え合っていくのをどう作っていくかが大きな問題になって来ると思う。私たちの活動とも共通する活動だ。「自助」「互助」「共助」「公助」の言葉もあるが、どこかに偏ることなく、必要な人が必要なサービスが行き届くようバランスが大事だと思う。 ・鳥取市内に組合員が3万2千人いる。市内の人口が19万人なので、8人に1人が組合員、17%くらいで高齢者が多い。一方で職員は750人くらいで、看護師、リハビリ技師を中心に35歳以下が4割となっている。医療の組合事業は、地方での雇用創出の役割も果たしているのだと思う。 ・病気にならない、要介護にならない、できれば元気でいたいのが皆の願いで、健康増進の活動が大事だと思う。地域での日常の活動ではその点を重視している。去年3か月ほど行ったキャンペーンでは、4,352人が協力、5,300人ほどが食生活や運動、口の健康などに取り組んだ。また新聞を1か月に1回発行しているが、これは手配りで配っている。対面で声かけ、ゆるやかな安否確認が大事だと考えている。手配り参加者が1,241人で、16,860軒に届けている。 ・鳥取市のアンケートは、無作為で各世代に回答をもらっている。私達も、自分たちの活動が組合員の要求に合っているかどうかの問題を検証しようと、アンケートを取った。回答してくれたのは1,488人。鳥取市では60歳以上が54%で半数ちょっとだったが、私たちのアンケートでは、皆でわいわい話しながら書くものだったので、60歳代以上が94%だった。 ・現在元気な人たちの声で「そうだなあ」と思ったのは、高齢者の一人暮らしへの不安。何が起こるか不安だ、入所施設が見つかるか、病気で倒れる、災害時といった突発的な時にどうするか、大型ごみの問題、免許返納をどうするかなど、一人暮らしの人は横のつながりを求めていることを感じた。 ・超高齢化や人口減少の問題、貧困の問題などを、どう解決するのか、関わっていくべきなのか、深めて行きたいと思う。

議事内容（要旨）

<p>J 委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・所属している法人は50年の歴史があり、5,000人近い職員がいる。特別養護老人ホームは鳥取県東部を中心に7か所。私がいる施設では、入所・短期入所は合わせて86人がおり、デイサービスは30数人が利用している。 ・先ほどから話題に挙がっているように、法人にとっても介護職員の問題が深刻な状況だ。入所もある程度絞っている状況で、運営者側としてはかなり苦勞している。どちらの施設も同じ状況だと感じている。具体的には、何か所かデイサービスをやっている所が統合する動きもあった。また小さな居宅事業所が閉鎖した。施設を運営するのは厳しい時代だと思うが、一方、利用希望は沢山あり、希望にこたえるため、引き続き努力をしていく。
<p>K 委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の傾聴、相談について。例えば、臨時給付金。申請をすると不備だと返送される、再び申請しても不備だと戻ってくるという連絡・相談が入ったので行ってみると、一人暮らしの80歳代の男性だった。家にコピー機もない、通帳などをコピーして記入するのがなかなかできない。その人は、夏の暑いときに、毎週銀行の窓口に行って入金の確認をしていたそうだ。「申請ができないで困って人がいる」と、私どもの方に連絡が入った。連携がとれたらと思う。声かけをいただければ、対応させていただきますし、そういう人には寄り添った支援をしていきたいと思う。 ・生活保護の申請についても、駅南庁舎に申請を持っていくと、不備だと返される。直して持って行くと、今度は「配偶者を連れて来てください」と返される。3回ほどすると、もう駄目だとあきらめる。そこで、こちらに相談に来て、一緒に申請したこともある。こういったことで困っておられる。訪問していただけないか。と声をかけていただきたい。 ・行政の窓口に行くと、高齢者や障がい者は緊張される。あれこれ言われても分からない部分があるので、そこも寄り添って支援していきたいという思いがある。 ・地域の中では認知症の人も増えてきている。私の地域では、昨年から「認知症を正しく学び適切な対応教室」をやっている。地域包括支援センターと一緒にやりましょうと案を示しますが、主催はそちらでしょう。と言われる。これを3回も言い返された。連携とかネットワークって何って思います。幸いに、今年度は、共催で地域包括支援センター、介護施設、まちづくり協議会などを行う運びとなった。警察や消防なども一緒になって、地域の人が安心して暮らせるまちを、認知症になっても皆が見守ってくれるから大丈夫だと思える地域にしていきたい。それが地域福祉計画かなと思う。 ・駅南庁舎の職員も忙しくしておられ、すべてに親切丁寧は難しいと思うので、連携がとれたらと思う。ただ個人情報があるので、必ず当人に私どもに言ってもいいか、電話してもいいか、確認してもらいたい。 ・課題はたくさんあるが、一つひとつクリアしていくことが大事だと思う。

議事内容（要旨）

<p>L 委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども食堂について。社会福祉法人改革で、儲かってお金がたくさん余った法人は再投下しなさいとなり、子ども食堂に飛びついた所が結構ある。一方でやめた所も結構ある。一番の原因は、やって来る子どもの親がパリッとして格好いいこと。あんなスーツを着ている人たちに、なんで自分たちがしないといけないのかとなった。貧困が見えなくなっていることを理解していないのが一つの原因だろうと思うので、そういった今日的な貧困への理解を、誰かがどこかで広めていくことが必要だ。そもそも、社会福祉をやっている社会福祉法人が、その程度で辞めてしまうお粗末な所も世の中にはたくさんある。これも事実だ。 ・昨年、地域で町内会長をしたときに大変苦労した。40年くらいの新興住宅で、私より二世帯くらい上の人は子どもが県外に出ているため、高齢者の独居、跡継ぎがない世帯もかなり多い。町内での交流もないので、その結果、一昨年、老々介護の住宅が火災に遭い、夫婦が亡くなった。それから皆少し目が覚めて、町内会の連絡先を作ろうなどとなった。何より、誰かがつなぐ仕事をしないといけないと思った。何かをつなげてやっていこうとなると、年齢や能力によってと考えるが、とりあえず集まろう、話そう、酒を飲もう、お茶を飲もう、体が丈夫な人は体を動かせばよいし、経験豊富な人はその経験を話してくれればよい。歌が上手い人はカラオケすればよい、歌わない人は手拍子してくれたらいいなという状態のつなぎ役を行い、皆の顔を覚えてもらうことから始めた。 ・地域福祉計画を進める際、行政にはやってもらいたくないと思っている。行政は大きな骨子を作って、財力で支援をしてほしい。本当は社会福祉協議会に期待したいが、社会福祉協議会がとても忙しいことは知っている。地区社会福祉協議会の人もしなくてもよい仕事までやっている。どこかにコーディネーターの仕事があればいいと思う。 ・県社会福祉協議会、市社会福祉協議会、地区社会福祉協議会も社会福祉協議会の本来の仕事はなんだろうというのを、もう1回見直してほしいと思う。 ・高齢者の場合は地域包括支援センターがあるが、認定や相談等が多い。社会福祉法人が公益事業に再投下するときに、高齢者施設なら地域包括支援の一翼となる相談支援ができる所に投下してはどうだろうと思う。 ・所属している法人の離職率は4%を切っており、介護職員についてはほとんど困ったことがない。困っているのは保育士。昔のように幼稚園か保育園かで選ぶのではなく、一般企業やアパレル関係の仕事に就いている。介護職員は、企業イメージのアップなど企業努力もあって、募集すると結構来る。
<p>岩城委員長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ほかに何かあれば伺いたい。

議事内容（要旨）	
A委員	<ul style="list-style-type: none"> ・今100歳時代と言われているが、昨年、全国で100歳以上の人は、6万8千人弱。老人福祉法が制定された昭和38年は、150人ちょっとだったらしい。半世紀で400倍以上。全国の数値なので鳥取にあてはまるかは別だが、100歳となると、定年退職後40年くらい過ごさないといけない。健康寿命をどれだけ伸ばしていくかも考えていかないといけない。そこも配慮してもらえたらと思う。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・皆さんから、いろいろな経験に基づいた貴重なお話をいただきありがとうございます。 ・若い人が活動に参加しづらい状況ということがあり、また、介護の現場でも高齢化してきているので、若い人にどうやって地域の活動に参加してもらうのか、雇用、医療、介護とか色々関わっていくことが大事と思う。 ・鳥取県全体の話になりますが、いろんなボランティア活動で参加した経験のある人は、鳥取県は全国的にみて高いといわれる。一方で地域での色々な人材がないというところもあります。配食サービスをやめられたという話もありました。高い意識がある人がいる一方で、人が足りないという。そこをどうやってマッチングさせるか、考えなければいけないと感じたところでは。 ・ここで結論は当然だせませんので、今後、いろんなご議論をいただければと思ったところでは。大変ありがとうございました。
C委員	<ul style="list-style-type: none"> ・地域包括支援センターの民営化、民間への移行について。鳥取市は直営でやってきた。倉吉市や米子市は、最初から民営でやって来た。それぞれ良さはあると思うが、民営でやっている所は、最初に公共性の担保をどうするのかと。10年経った今、徐々に支援される人、利用者、支援の対象が必要な人が増えていく中で、地域でネットワークを作らないといけないことに気づき、広げていった経緯を見て感じている。 ・そこまでの経過を、鳥取市が同じようにたどるのはどうかと思う。直営こそその良さもある。虐待などハードなケースや困難な事例のときに、市として責任を持って関わってもらえる安心感が大きい。反面、地域づくりでは、なかなか鳥取市として動きにくい面があったのではないかと。それぞれの良さをどう生かすかをしっかりと考えてもらいたい。民間に、後はよろしくとお願いするとは思わないが、きちんとした理念でやってもらいたい。小さな事業所は、包括支援センターと上手く関係を築いていかないと食べていけない。どこかが欠けたら、その地域の担い手が消えてしまうかもしれないのが今の状況。住民の方を向いて、きちんと支援が行われることを約束してもらいたいと思う。 ・民間に出すことが悪いといっているわけではない。現場を見ている側としては、人材面でどうなのか、担っていけるのか、今、包括支援センターに人材を送らせている法人としての考えはどうなのかの不安がある。厳しく、しっかりと考えてもらいたい。

議事内容（要旨）	
岩城委員長	・何か意見などなければ、議事（４）その他について。
事務局	・グループインタビュー、次回の予定について ・委員会の公開について
岩城委員長	・予定の議事が終了したので、閉会としたい。
事務局	・挨拶～閉会。